

2010年3月15日

コンビ株式会社

社長:松浦 弘昌 資本金:29億9,192万円
(東証第一部: 7935)

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-6-7

TEL: 03-5828-7666 FAX: 03-5828-7665

コンビ プライマリー・オーラルケア研究会・赤ちゃんのお口調査 II

おしゃぶり使用に「不安」な母親約8割 それでも半数近くが「誰にも相談しない」

～お口ケアの主流は「歯磨きトレーニング」「仕上げ磨き」「キスしない」～

～おしゃぶり使用率が高いのは「ミルク派」～

コンビ株式会社「**プライマリー・オーラルケア研究会**」(以下、P・O 研究会)では、現在3歳(生後36ヶ月)までの赤ちゃんがいらっしゃる母親を対象に、赤ちゃんのお口ケアやおしゃぶりの使用状況などに関する調査「**赤ちゃんのお口調査**」を実施・分析いたしましたので、結果をご報告いたします。

調査結果からは、「虫歯」や「歯並び」などの**赤ちゃんのお口周りについての母親の高い意識**や、そのケアの実態が明らかになりました。一方、赤ちゃんの歯が生える前からお口ケアを意識している母親は少数にとどまり、「口と舌をつかった哺乳運動」を通じた、授乳期のお口の**機能発達についての認識は依然不足**していました。また、半数近くが使用経験のある「おしゃぶり」ですが、多くの母親が「歯並び」への影響などについて**不安を抱えたまま、誰にも相談せずに使用している課題**が浮かび上がりました。P・O 研究会としては、これからも、「おっぱいからはじまる口腔発育」の重要性について支援・情報発信を進めることで、上記課題を解消する努力を継続的に行っていく必要性を改めて認識した次第です。

【調査結果のまとめ】

- **赤ちゃんのお口周りで、母親が気になるのは1位「虫歯」2位「歯並び」**……………P.2
—自分自身の口周りを気にしている母親ほど意識が高い傾向に。
- **気になり始めるタイミングは「歯が生えてきてから」が約6割**……………P.2
—歯が生える前から気にしている母親は、僅か14.4%にとどまる。
- **お口ケアの主流は「歯磨きトレーニング」58.2%「仕上げ磨き」50.8%**……………P.3
—「口移しやキスをしない」母親も29.5%。
—赤ちゃんのお口に関する情報源は、「専門家」よりも「インターネット」
- **おしゃぶりの使用は「ミルク派」が「母乳派」の1.7倍**……………P.4
—母親全体でのおしゃぶりの使用経験は半数近い48.1%。
—使用タイミングは「機嫌の悪いとき」58.9%、「泣いているとき」58.4%。
- **おしゃぶりには約8割の母親が不安を感じているが、「誰にも相談していない」46.3%**……………P.5
—不安のトップは「歯並びへの影響」43.4%。

【調査概要】

- 調査期間:2009年9月28日～10月1日
- 対象:全国0ヶ月～36ヶ月までの子どもを持つ母親 455人
- 方法:インターネットによるアンケート回答方式

*本調査における授乳とは、母乳、ミルクを赤ちゃんに与えることを指します。

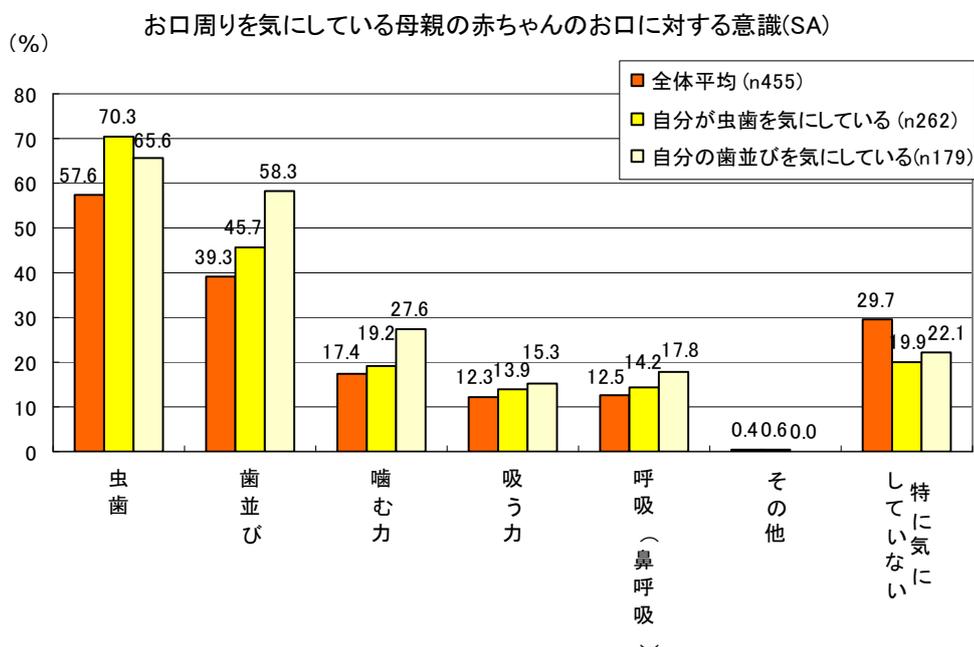
■ **赤ちゃんのお口周りで一番気になるのは「虫歯」。6割近くの母親が「気になる」。自分が困っている母親ほど、赤ちゃんのお口に対する意識も高くなる。**

母親が「赤ちゃんのお口周りで気になっていること」は、「虫歯」(57.6%)、「歯並び」(39.3%)、「噛む力」(17.4%)となりました。

6割近くの母親が、赤ちゃんの「虫歯」について気にしており、「歯並び」についても4割近くの母親が気にしていることがわかります。その一方で、「特に気にしていない」という母親も3割近くの29.7%となりました。

また、「自分自身がお口周りのことで困っているかどうか」質問したところ、「虫歯が気になる」が69.7%、「歯並び」を気にしている母親は35.8%でしたが、これら「自分の虫歯が気になる」「自分の歯並びが気になる」母親が、自分の赤ちゃんのお口周りについてどのように気にしているかで見ると、「虫歯」「歯並び」ともに全体平均よりも高い数字が出ました。

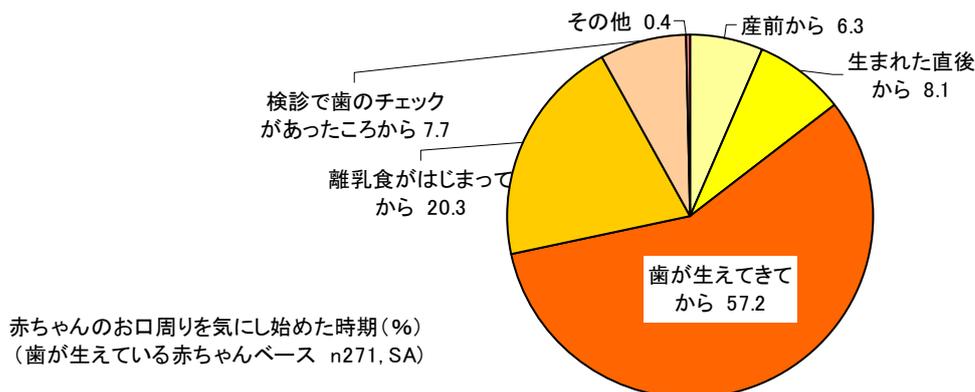
自分の虫歯や歯並びが気になる母親ほど、赤ちゃんのお口周りへの意識が高いと言えます。



■ **赤ちゃんのお口周りが気になり始めるのは、「歯が生えてきてから」。歯が生える前から意識がある母親は14.4%のみ。**

すでに歯が生えている赤ちゃんのいらっしゃる母親に「赤ちゃんのお口周りが気になり始めた時期」を聞いたところ、「歯が生えてきてから」が6割近くの57.2%で最も多く、続いて「離乳食が始まってから」20.3%となりました。

歯が生える前から気にしていた母親は14.4%で、歯が生えてこないとお口周りのことについての意識はなかなか生まれにくいということがわかります。

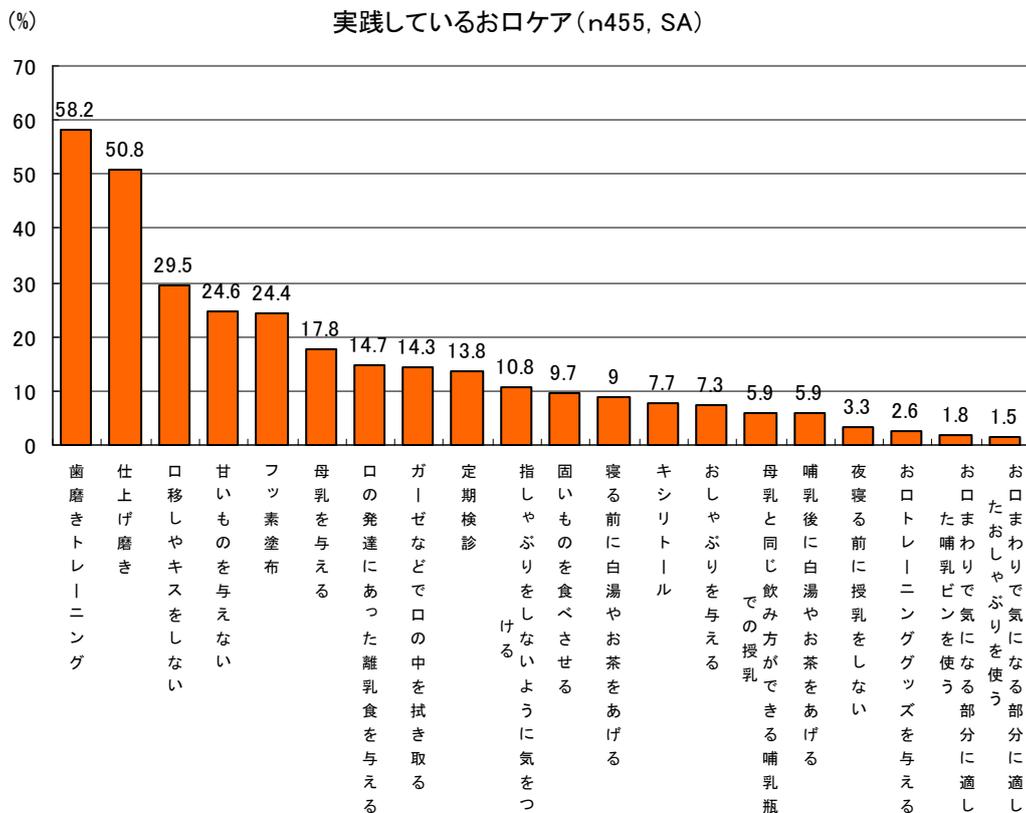


- 半分以上が実践しているお口ケアは「歯磨きトレーニング」「仕上げ磨き」。「口移しやキスをしない」も3割近くの29.5%。
虫歯ケアは実践しているものの、そのほか口腔発育に期待されるケアの実践はまだまだ。

実際に赤ちゃんにどんな「お口ケア」をしているかたずねたところ、「歯磨きトレーニング」(58.2%)「仕上げ磨き」(50.8%)の順となり、半数以上の母親が実行していました。また、「口移しやキスをしない」が29.5%と3割近くの母親が実行しています。

上位5位までの施策はほとんどが「虫歯ケア」に関するお口ケアで、「虫歯ケア」についての実践はかなり進んでいるといえそうです。

一方で、「嘔む力」や「吸う力」「歯並び」関連の項目については、まだまだ実行されているとはいえない状況です。



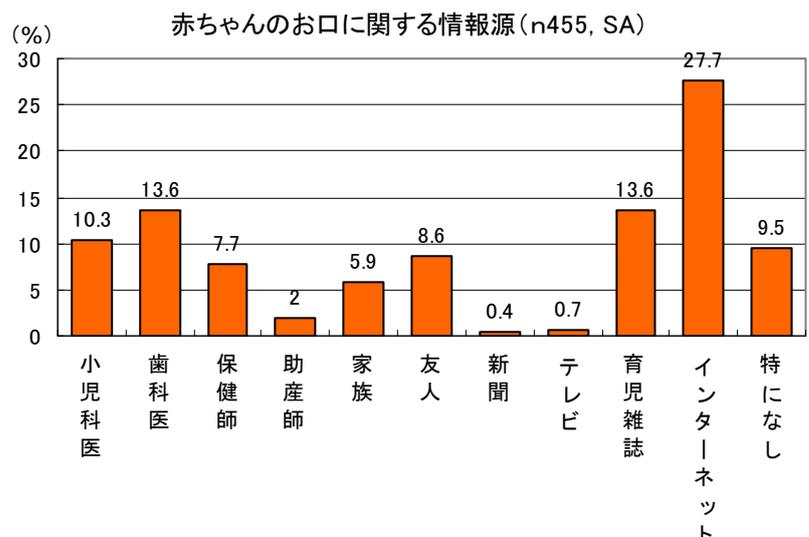
- 赤ちゃんのお口に関する情報源は、「専門家」よりも「インターネット」。

赤ちゃんのお口についての情報源を聞いてみたところ、「インターネット」がトップで27.7%となりました。「育児雑誌」と「歯科医」がそれぞれ13.6%でこれに続きます。

前回のおっぱいに関する調査と同様に、現代の母親が「インターネット」を情報源としてかなり頼っている様子がよくわかります。

※ 前回「赤ちゃんのお口とおっぱい」調査結果

http://www.combi.co.jp/topics/files/200935_2.pdf

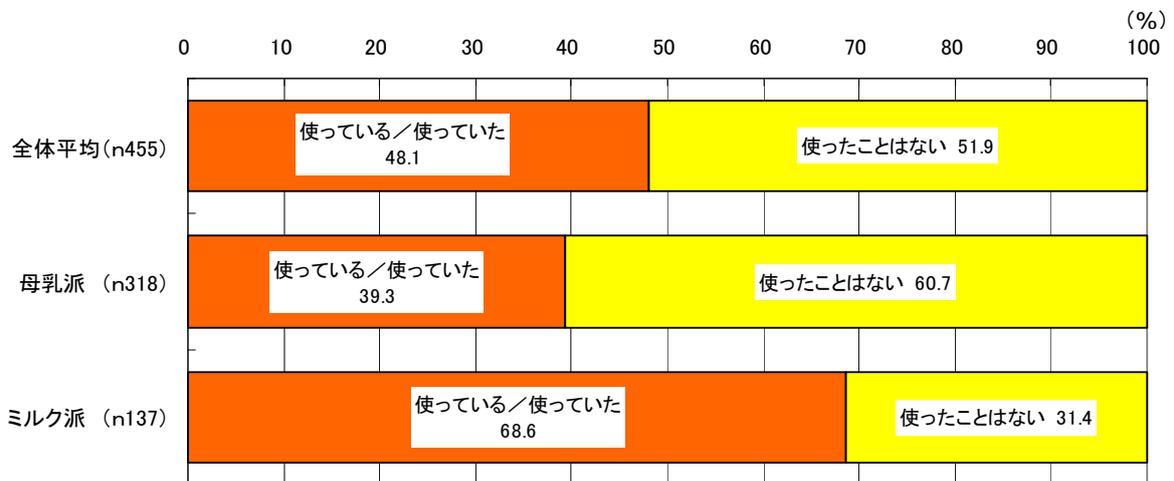


■ おしゃぶりを使っている人は半数近くの 48.1%。ただし、母乳派とミルク派で使用率に 1.7 倍の差。

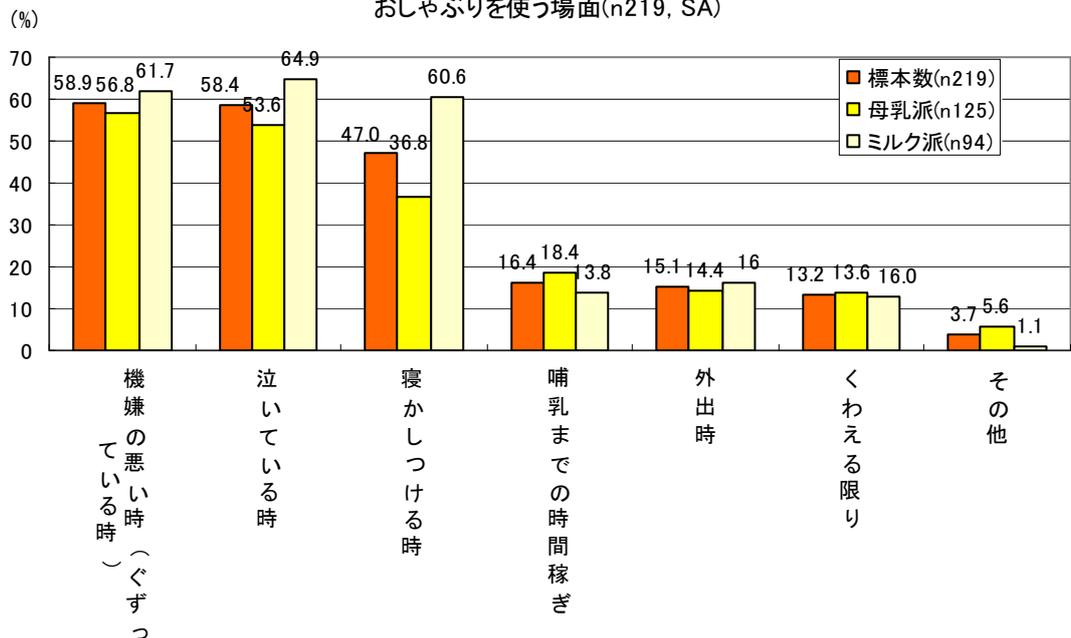
おしゃぶりを使っている人は全体平均で 48.1%でしたが、赤ちゃんへの授乳状況により、使用率に違いが生まれました。「母乳派（母乳のみ+母乳中心の混合）」の場合は 39.3%であるのに対し、「ミルク派（ミルクのみ+ミルク中心の混合）」の場合は 68.6%となり、母乳派とミルク派の間で使用率に違いが生まれました。ミルク派のほうが「人工乳首」に慣れていることなどが、おしゃぶりの使用率の高さに結びついているようです。

また、おしゃぶりをどんな時に使っているかという質問を見てみると、「機嫌の悪い時」「泣いている時」がいずれの場合にもトップ2の理由ですが、「寝かしつける時」については、母乳派が 36.8%なのに対し、ミルク派は 60.6%と大きな違いがありました。

おしゃぶりの使用率(n455, SA)



おしゃぶりを使う場面(n219, SA)

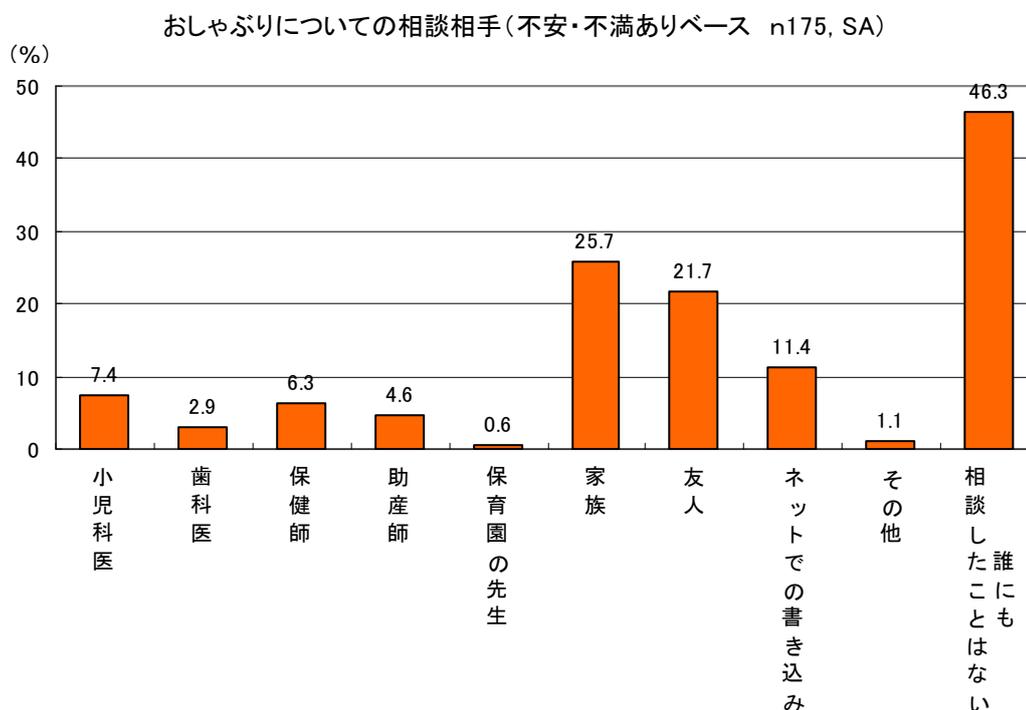
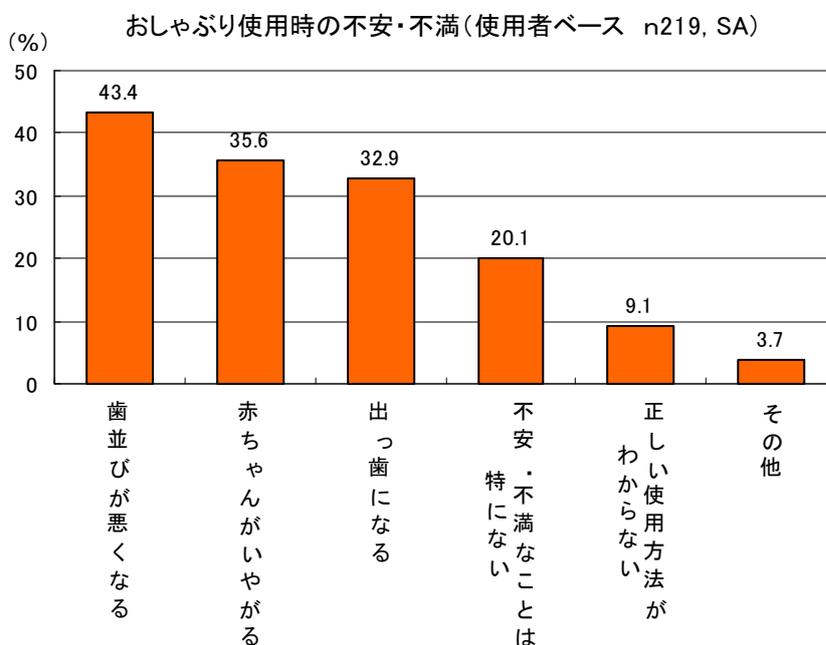


■ おしゃぶりを使用することで不安・不満を感じることのトップは「歯並びへの影響」で43.4%。不安を感じる母親は8割近くいるのに、その46.3%が「誰にも相談していない」。

おしゃぶりを使っている母親に「おしゃぶりを使うことでの不安・不満は何か」尋ねたところ、全体の8割近くの母親が「おしゃぶりの使用」について何らかの不安を感じていました。特に「歯並びが悪くなる」(43.4%)、「出っ歯になる」(32.9%)など、歯並びへの影響を心配している母親が多いことがわかります。

一方で、この不安や不満についての相談相手を聞いてみると、46.3%と半数近くの母親は「誰にも相談していない」ことがわかりました。また、相談するとしても「家族」(25.7%)「友人」(21.7%)で歯科医や小児科医などの「専門家」に相談している人は少数でした。

おしゃぶりは正しい方法で使用しないと、歯並びなどに影響を与えてしまう可能性があるものですが、このようなおしゃぶりの使用方法など情報や悩みについてきちんと受け入れる体制やその情報が母親に伝わっていない可能性がそれなりに高いことが明らかになりました。



今回の調査から

正しいおしゃぶりの使い方やお口ケアは「専門家」に相談を

東京歯科大学 小児歯科学講座 講師／歯学博士 米津卓郎先生



今回の調査では、赤ちゃんのお口周りについて意識を持つお母さんが、それなりに多いことが明らかになりました。特に虫歯ケアについては、「歯磨きトレーニング」や「仕上げ磨き」など半数以上のお母さんが実践をしているという結果になりました。

一方、不安や悩みを抱えていても、専門家に相談することなく、悩みを抱え込んでしまったり、ネットの情報に頼ってしまうお母さん方が沢山いらっしゃるということは、大変気がかりなことです。またネットや育児書を見ますと、お産や育児用品の情報はあふれていますが、それらの“知識”をどのように取捨選択し、個々の家庭でどのように応用するかといった“知恵”の部分が欠けているようです。画一化した子育てはありません。“正確な知識”と“知恵”に関しては是非とも専門家にご相談下さい。

おしゃぶりについて不安をお持ちのお母さんが多いようですが、おしゃぶりは、いろいろな研究結果からも一定の鎮静効果や安息効果が認められており、育児をサポートする有用なツールとなります。しかし、誤った使い方をすると「歯並び」に影響が出る恐れがあり、その選びかた、使いかたには細心の注意が必要です。

また、お母さんができる赤ちゃんの虫歯対策としては、お母さんから虫歯の原因となるミュータンス菌を早い時期から伝染させないことが重要です。そのためには、「口移しをしない」ことは大事だと考えますが、「キスをしない」というのはどうでしょうか？赤ちゃんの健全な発達にはスキンシップが不可欠であり、もし伝染ということがご心配でしたら、妊娠中のお母さんは出産前から自分自身の口の中をケアし、また育児中はお母さん、お父さんのお口の中を絶えず清潔にして唾液中のミュータンス菌のレベルを下げるようにして下さい。妊娠前に虫歯の治療を行っておくことも重要です。

お子様の歯や口の発達についての悩みは、小児専門の小児歯科医などに相談して、赤ちゃんの口周りのケアを実践してほしいものです。

【おしゃぶり選び・使用のチェックリスト】

- 赤ちゃんの月齢に合ったものを選ぶ
- 長時間の使用は避ける
- 言葉が出だす1歳過ぎになったら、おしゃぶりのフォルダーを外して、常時使用しないようにする
- 1歳半を目安に使用をやめるようにする
- おしゃぶりを使用している間も、声かけや一緒に遊ぶなど、ふれあいを大切にする
- 4歳以降になってもおしゃぶりが取れない場合は、かかりつけの小児歯科医に相談する

米津卓郎先生 プロフィール

1952年生まれ 徳島県出身 歯学博士

東京歯科大学小児歯科学講座で小児に対する歯科医学の研究、診療および教育に長年従事するとともに、地域で行われている低年齢児の歯科健康診査に30年以上携わるといった大学人としてはユニークな経歴の持ち主である。また、アメリカのアイオワ大学予防歯科学講座に留学経験もあり、共同発表したおしゃぶりに関する研究は世界的に有名である。現在も様々な共同研究を継続中であり、毎年夏休みを返上して渡米している。

■プライマリー・オーラルケア研究会とは

コンビは、『生まれた直後から3歳頃までの口まわりの発育(口腔発育)を統合的に考えることが、その後の子どもの成長のために重要』と考え、一連の発育に関わる口腔ケアを「プライマリー・オーラルケア」と位置づけています。

そして、これまで行なってきた哺乳研究(哺乳運動など)、育児研究などで得られた様々な成果を、さらに口腔発達領域全般の研究へと拡大・発展させる為に、様々な専門分野の先生方との学際的な(インターディシプリナリー(interdisciplinary))研究を推進すべく、2009年11月に「プライマリー・オーラルケア研究会」を発足させました。本研究会では、「おっぱいからはじまる口腔発育」をメインテーマとした一貫性のある研究を通じて、乳幼児期の用具開発と発達支援、情報発信に努めて参ります。

【団体概要】

正 式 名 称 : 『プライマリー・オーラルケア(略称:P・O)研究会』

発 足 : 2009年11月17日 (<http://www.combi.co.jp/company/po/index.html>)

研 究 内 容 : 「おっぱいからはじまる口腔発育」をメインテーマとした、
専門諸分野の学際的な研究。

運 営 体 制 : 本研究会は口腔発達領域を4分科会制として推進。

「小児歯科・成育歯科分科会」

「母乳育児分科会」

「摂食・嚥下^{えんげ}分科会」

「手とお口の協調運動分科会」

主 席 研 究 員 : 松原 範宜

《コンビ株式会社》

報道各位からのリリースに関するお問い合わせ先

経営企画部 広報担当 須田(t.suda@combi.co.jp)

TEL : 03-5828-7607 / FAX : 03-5828-7662